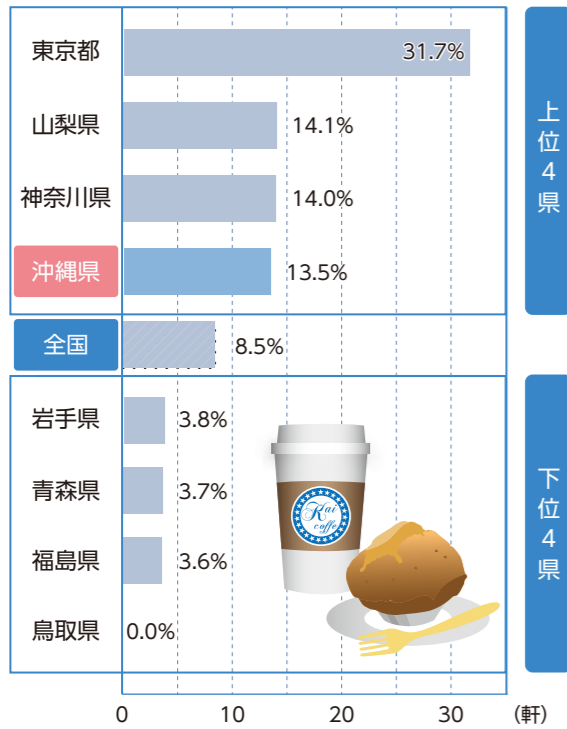


● シアトル系コーヒー店の軒数
(1万人あたり/2013年8月現在)

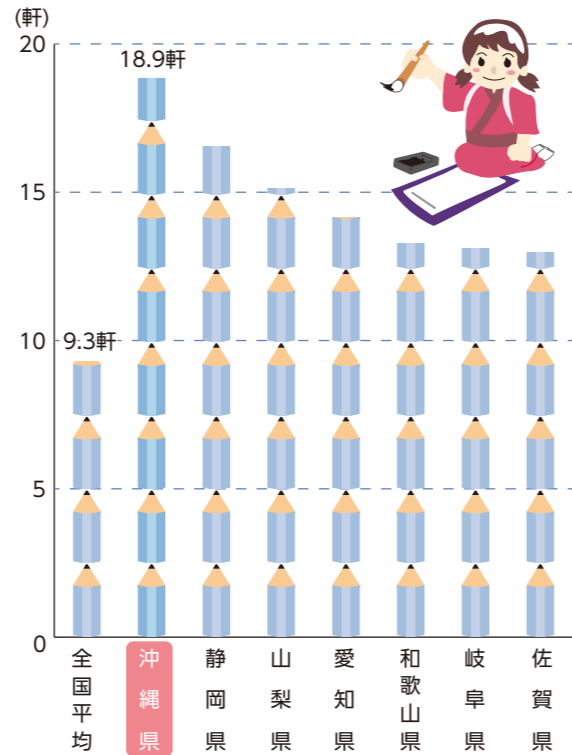


13.5軒

米国シアトル発祥で90年代後半のカフェブームを上げた“シアトル系コーヒー店”。強めにローストした珈琲の深い味わい、フレーバーやサイズなど多様な注文ができるのも特徴だ。やや高めの価格ながら、落ち着いた内装や照明など従来の喫茶店と一線を隔す店づくりが安定した客足を誘う。

日本進出の老舗・スターバックス、先月県内2号店を出店したタリーズが代表的だ。各ホームページから都道府県ごとの店舗数を集計し、人口1万人あたりの店舗数を算出してみた。沖縄県は13.5軒で、全国第4位の店舗数となっている。上位は東京都やその隣接県が目立つ。沖縄はドライブインやロードサイド店の需要、県外観光客の利用頻度、商業施設の多進出・改装など出店に適する条件が多いようだ。つつい長居する店構えもユンタク大好きのウチナンチュにはぴったりなのかも？
(海邦総研・屋比久有紀)

● 書道教室の軒数
(10万人あたり/2009年)



18.9軒

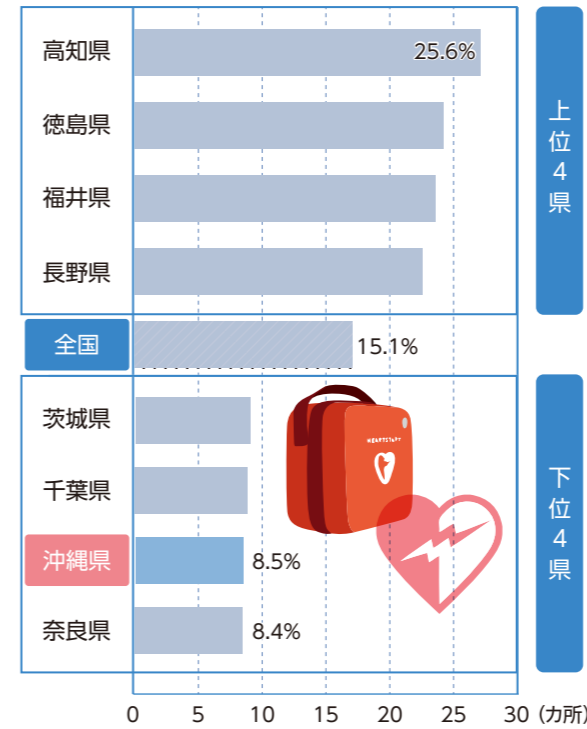
パソコンやメールの普及で、手書きで文字を書くことが、めっきり少なくなってきた。逆に、年賀状などに添えられた手書きの文字を見ると、その人の“優しさ”や“思い”が伝わってくる。

「文字は人なり」。文字は、人柄やその人が持つ教養までも表すと言われている。そのため、きれいな字を書きたい…と誰もが願うのではないだろうか。

総務省「2009年経済センサス基礎調査」によれば、沖縄県内に所在する書道教授業事業所数、いわゆる書道教室の数は、262軒。人口10万人あたりでは18.9軒に相当し、全国1位の水準だ。全国平均と比べると2倍となり、県内では多くの方が「書」に親しんでいることがうかがえる。

最近「美文字」をテーマとしたテレビ番組や書籍を目にすることが多くなった。さて、あなたの字は「美文字」だろうか？
(海邦総研・安田ひろみ)

● AEDの設置場所数
(1万人あたり/2013年10月時点)



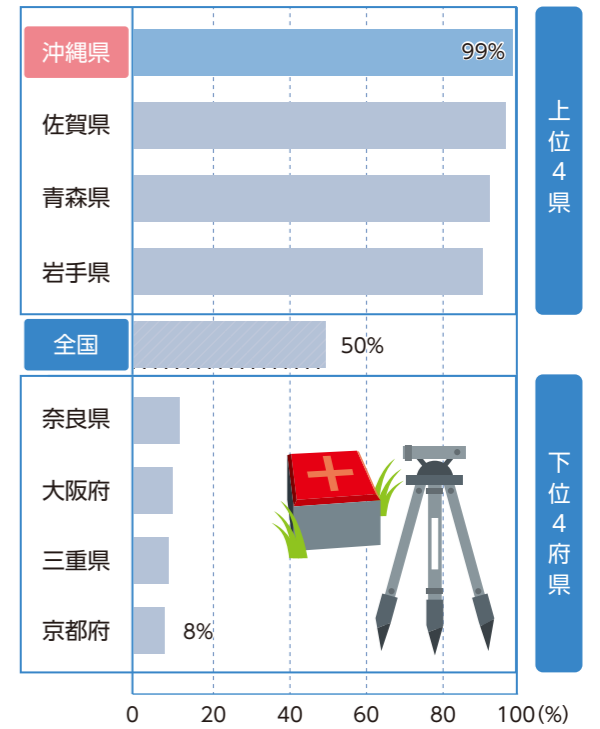
8.45カ所

近くにいる人が突然、病気や深刻なケガなどで倒れてしまったら、どうすればいいだろう。素人判断は禁物だが、早期に手当をすれば、早い回復につながることも多いはずだ。

那覇市でも、コンビニやモノレールに設置されたAEDが活用され尊い人命が救われた事例がある。AED(自動体外式除細動器)とは、心肺停止状態の心臓に対して電気ショックを与え正常なリズムに戻すための医療機器。一般財団法人日本救急医療財団によると、沖縄県内のAED設置場所数は1192カ所。人口1万人あたりに換算すると8.45カ所で全国では2番目に少ない水準である。

いざという時に慌てずにすむよう、消防署などではAEDの操作を含めた応急手当の講習会を開いている。あなたの大切な人の万が一の時に備えて、一度受講してみてもいいだろうか？
(海邦総研・湧川竜也)

● 地籍調査進捗率
(2012年度)



99%

人に戸籍があるように、土地には地籍というものがある。地籍とは、一筆ごとの土地に関する記録「土地の所在、地番、地目、地積、所有者名等」のことだが、一部は境界や面積が不明確なことから、調査が急がれている。

国土交通省によると、2012年度末時点における沖縄県の地籍調査の進捗率は99%となっており、都道府県別では進捗率が最も高い。

他県は主に市町村が主体だが、沖縄は県が継続的に予算や体制を確保し対応してきた。県外は都市部など一筆ごとの土地が細かく分割されており、調査に費用や時間が多く必要なことも進捗率が低い理由という。しかし、県内でも過酷な地上戦により、所有者不明の土地が今なお約80万平方メートル、東京ドーム約17個分存在する。県は解決に向けた検討委員会を立ち上げており、地籍調査の終止符が打たれることを願いたい。
(海邦総研・比嘉明彦)